



ほっ スピタル・かいづか

(41) 胃がんに対する新しい治療法

問合せ先 貝塚病院 ☎072-422-5865

2018年に本庶佑先生が「免疫抑制の阻害によるがん療法の発見」でノーベル賞を受賞されました。本来、体の免疫はがんを攻撃する能力をもっていますが、がんが免疫にブレーキをかけて攻撃を防いでいます。このブレーキを外し、免疫ががんを攻撃できるようにする免疫療法薬剤が開発され、がんと共存しつつ長く生きることも可能となっています。

胃がんではその免疫療法薬剤の1つであるニボルマブを用いた治療が有効であることが示され、進行再発胃がん全例に対して、適応となりました。また、条件を満たす人に対して、同様の免疫療法薬剤であるペムプロリズマブも進行再発胃がんでも適応となりました。

この免疫療法では、これまでの抗がん剤によるはき気、おう吐の副作用はほとんど認められなくなり、人によっては、これまでの薬剤よりも長期にわたって効果が続き、投与を終了した後も効果が継続することもあります。

免疫療法は、悪性腫瘍に対する化学療法、手術療法、放射線療法と並んで4本柱の1つとしての重要性が確立し、今後の発展も期待されています。

外科・消化器外科部長 川田純司